令和6年度 結果の分析及び今後の改善策(案)

(中間 **最終**)

郷原中学校区 校番6

学校名 郷原小学校

重点	d 中期(3年間) 経営目標	e 短期(今年度) 経営目標	l 結果の分析 (結果と課題をこう考えます)	m 今後の改善策(案) (こう改善します(案))
確かな学び	主体的に学ぶ児童の育成	基礎学力の定着(算数科図形領域) 表現力の向上	<p>○「教科書ワークシートテスト」70点以上の児童の割合は、75%となり、上半期と比べて10%増加した。研究授業の際に単元の導入や発問を工夫したことが学力の向上につながったと考える。</p> <p>○算数科だけではなく、学力差の大きい教科もあり、基礎学力の定着に課題のある児童が少なくない。</p> <p>○2学期末の算数科の振り返りの分析では、質の高い振り返りを書くことができた児童は82%であり、上半期の79%に比べやや増加しているものの、字数目標達成児童は60%と書くことに苦手意識がある児童もあり、課題が残る。</p>	<p>○チャレンジタイムと城山タイムに学力補充や個別指導を行っている。指導内容を精選して計画的に実施している。今後は、学力調査の結果等を分析し、課題のある領域を中心により系統的な指導を行っていく。</p> <p>○児童の学力、表現力向上のため、①導入の工夫 ②発問の工夫 ③関わりの工夫 ④振り返りの工夫を行い、授業改善を図る。</p> <p>○生活科や総合的な学習の時間等、他教科においても、引き続き充実した体験を行い、表現の場や表現する時間を保障する。今後も地域と積極的に関わり、目的意識をもって主体的に活動できる場を計画的に設けていきたい。</p> <p>○今後も、算数科の単元の終わりに書いて振り返る活動を位置付け、振り返る意義や振り返りの視点を児童と共有する。</p>
豊かな心	人との関わりから学ぶ児童の育成	礼儀・規範意識を身に付けた児童の育成 ふるさと郷原を愛する児童の育成	<p>○守れていない、どちらかといえば守れていないと否定的な回答をした児童が、19人から17人に減少した。できていない児童が固定化している傾向があるので、個別に支援・対応していく必要がある。</p> <p>○目標値には届かなかったが、肯定的回答が80%と、1学期よりも大幅に数値を上昇させることができた。総合的な学習を通して、地域の自然に触れたり、感じたことをまとめて発表したりする機会が増えたことが、結果につながったと考えられる。</p>	<p>○生活アンケートの振り返りを各学年毎の集計で行い、細かい把握をする。その上で、個別に指導する機会を増やしていく。</p> <p>○地域のよさや魅力についての愛着は、児童に内在しており、それを素直に表すことができる雰囲気作りや地域の魅力として自覚させる場を増やしていく。</p>
健やかな体	自らの健康を考えて安全に行動できる児童の育成	進んで健康・体力づくりに努める児童の育成 自分の命は自分で守ろうとする児童の育成	<p>○年間目標の数値をクリアすることができた。前回からの取組の成果もあり、50m走の県平均の数値を上回った学年が増えた。ソフトボール投げの記録は全体的に向上した。長座体前屈はほとんど変わっていない。</p> <p>○「呉市防災教育カリキュラム」に基づいた授業の実施率は100%であった。「学校安全計画」に位置づけ、教職員に見通しをもたせ、確実に実施した。</p>	<p>○今までの取組を継続的に行うことで、今後も体力の向上を図っていく。また、全校児童が外遊びする機会を作る等、運動習慣の確立を目指したい。</p> <p>○今後も、「学校安全計画」を作成し、教職員の意識を高め、「自分の命は自分で守る」児童を育てていく。</p>
業務改善	教職員が意欲と能力を発揮できる教育環境の整備	児童と向き合う時間の確保 長時間勤務の削減	<p>○教職員アンケートにおいて「確保できている」と肯定的に回答した教職員の割合は93%であり、指標(80%以上)を達成することができた。SSS(スクール・サポート・スタッフ)やICT支援員等による業務支援は大きな支えとなっている。</p> <p>○時間外勤務45時間を超える教職員の割合は28%であり、指標(30%以下)を達成することはできた。</p>	<p>○教職員のタイムマネジメントの向上を図りつつ、会議や日課の時間短縮や時数削減等を活用し、放課後の時間確保に努める。</p> <p>○教職員のボトムアップによる業務改善を進める。</p> <p>○「何でも聞ける」「相談できる」雰囲気を作れるよう、教職員全員でつくり、業務の効率化をチームで進める。</p>